



## 花粉症の症状と治療

花粉症は花粉が原因で起こるアレルギー性鼻炎です。スギ花粉症はその中の一つですが、花粉（抗原）に対する反応物質（抗体）が体の中に増えていき、ある量以上になると発症します。抗体の増える速度に個人差があり、最近では3～4歳での発症もみられます。

症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみに加えて、皮膚のかゆみ、のどのかゆみ、せきなどがあります。これらの症状と、鼻汁中に好酸球（アレルギー独特の細胞）があること、血液中の花粉に対する抗体（IgE 抗体）が増えていることが診断の決め手となります。

治療としては、花粉のエキスを少しずつ体に入れる皮下免疫療法や舌下免疫療法が根本治療としてお勧めで、現在、花粉症の中ではスギ花粉はいずれも対応可能ですが、この治療を始める場合はシーズンオフからになります。一般的には内服薬や点鼻薬、点眼薬を投与する対症療法が多くなります。花粉飛散前に鼻の粘膜を焼き、アレルギーの反応を起こし難くするレーザー治療は、鼻づまりに効果があります。小児の場合は内服薬や点鼻薬、点眼薬による治療が中心になると思います。また、花粉の飛散数によって症状は変わるので、その時の状況に合わせて薬の変更も検討します。

いずれの治療をする場合でも、マスク、ゴーグルの着用、帰宅時には服をよくはたき花粉を払い落とす、洗濯物や布団を取り入れる前に花粉を払い落とす、窓を開けた後はよく掃除機をかける、などを心がける必要があります。

ひらた耳鼻咽喉科アレルギー科  
院長 平田 思